

# 1.麻疹

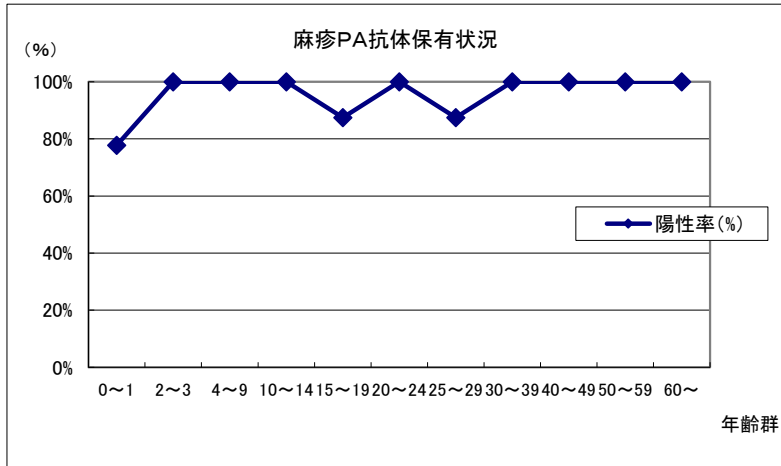
## 1) 検体数

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
検体数	9	7	8	5	8	4	8	7	5	2	1	64

麻疹は合計64検体についてゼラチン粒子凝集 (particle agglutination: PA) にて麻疹PA抗体価を測定した。各年齢群の指定検体数は22であったが、全ての年齢群で指定数に達しなかった。※今年度は新型コロナウイルス感染症の流行による影響も考えられる。

## 2) 麻疹PA抗体保有状況 (%: PA価16倍以上陽性)

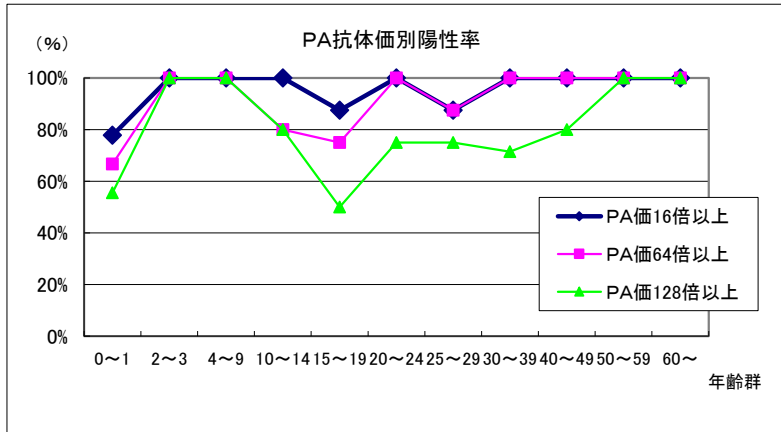
年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～
陽性率 (%)	77.8%	100.0%	100.0%	100.0%	87.5%	100.0%	87.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



麻疹抗体保有状況は、2～3歳、4～9歳、10～14歳、20～24歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60歳以上の年齢群で100%であった。0～1歳、15～19歳、25～29歳の年齢群で陽性率が95%を下回った。0～1歳の年齢群では昨年度より上昇した(昨年度は63.2%)。

3) 麻疹PA抗体価別陽性率(%)

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～
PA価16倍以上	77.8%	100.0%	100.0%	100.0%	87.5%	100.0%	87.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
PA価64倍以上	66.7%	100.0%	100.0%	80.0%	75.0%	100.0%	87.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
PA価128倍以上	55.6%	100.0%	100.0%	80.0%	50.0%	75.0%	75.0%	71.4%	80.0%	100.0%	100.0%



抗体価は修飾麻疹を含めた発症予防可能レベルを考えるとPA価128倍以上が望まれる。令和2年度はPA価128倍以上の陽性率が2～3歳、4～9歳、50～59歳、60歳以上では100%であった。しかし、10～14歳、20～24歳、25～29歳、30～39歳、40～49歳は80%以下で、0～1歳、15～19歳は60%を下回った。今回、15～19歳の年齢群で60%を下回ったのは、平成28年度以降、0～1歳を除く10代の中でPA価128倍以上の陽性率が低い傾向にあった10～14歳の年齢群が推移した為だと考えられる。過去、2007年に10代、20代を中心とする麻疹の流行が起こっていること、2012年以降は2014年を除き20歳以上の成人が中心となっていることから、今後、成人を迎える15～19歳の年齢群の動向については注視する必要がある。

確実な免疫を得るために、2回の定期接種を受けることが重要である。麻疹の罹患歴や予防接種歴が明らかでない場合には予防接種を受けること、また、接種歴が1回の場合や流行国に渡航する場合等には、2回目の予防接種を検討する必要がある。